

ジョン万次郎とは誰だったのか？

1841 年、14 歳の少年万次郎と彼の 4 人の友人が故郷の村、中之浜（現在の土佐清水）沖で釣りをしていたところ、嵐に巻き込まれ、舟のコントロールを失いました。黒潮は彼らを浜から遠く離れた、広大な太平洋へと運びました。潮の流れは時折、通常の北向きのルートに従わず、東向きに流れることがあり、これがその当時の方向でした。5 人はやがて、彼らが出発した場所から約 750 キロ離れた小さな島、烏島にたどり着きました。彼らは 143 日間島で立ち往生したのち、アメリカの捕鯨船によって救出されました。捕鯨員たちがジョンの愛称で呼んだ万次郎は、船に残りアメリカまで行くことを選び、そこで英語を学び、最終的には日本に帰るのに十分なお金を稼ぎました。John Mung（ジョン・マン）としても知られるジョン万次郎は、後に通訳および造船技師となり、1860 年代から 1870 年代にかけて日本政府が国の近代化と国際貿易の拡大に取り組む手助けをしました。万次郎の冒険に満ちた人生についてもっと学ぶことに興味がある訪問者は、共に土佐清水にある John Mung Museum（ジョン万次郎資料館）と万次郎の生家を訪れてみるとよいでしょう。